



©Yuki Asada

紛争を乗り越えて咲くバラの花

インドの南東に浮かぶ島、スリランカ。紅茶が有名なこの島で、2009年までの26年間、内戦が続いていたことをご存知だろうか。激戦地となった北部では、少数派のタミル人が戦火を逃れて各地を転々としながら終戦を待った。内戦で夫を亡くした女性も多いが、女性が就ける仕事は少なく、家族を支えていくのにも苦勞している現状だ。

スリランカ出身で、日本に長年住むジャーナリストのスペンドリニ・カクチさんは、戦争の被害を受け、家族の後ろ盾もない女性たちの経済的自立と、日本とスリランカの相互理解促進を目指して、特定非営利活動法人ナダージャパンを設立。港町トリンコマリーに裁縫センター

を作り、現地の女性たちが一つ一つ手作業で縫い上げた刺しゅうを衣服や小物に仕立てて日本に届けている。華やかなバラのモチーフが、ナダア（タミル語で「歩く」の意味）のシンボルだ。

「現在は日本でデザインや仕上げをしている部分もありますが、将来的には現地の女性たちが全て自分で作れるようになることを目指しています」というカクチさん。理事で女子美術大学名誉教授の木下道子さんやその教え子の若手デザイナー、女性たちに裁縫を指導する並木玲子さんなどと共に、魅力的なファッションを人のために生かす「ソーシャルファッション」の考え方を広めようと奔走している。



女性たちは子どもを育て、家族を養いながら働いている

★スリランカの手刺しゅうの小物を5人にプレゼント！
→詳細は38ページへ

★商品は、特定非営利活動法人ナダージャパンのHP (<http://gnadaa.org/>) を通じて購入可能。イベント出店情報はFacebookページ (<https://www.facebook.com/gnadaa>) から



スリランカ
トリンコマリー